Rotary **WeeklyBulletin**

KAKOGAWAHEISEI R.C

加古川平成ロータリークラブ

会　　長　鈴木　勝博
幹　　事　榊　誠
広報小委員長　網本　徹也
2680地区ガバナー　浅木　幸雄

例会日／毎水曜日 12:30～13:30・例会場／加古川プラザホテル
事務局／加古川市加古川町溝之口800　加古川商工会議所会館
TEL.079-422-8000　FAX.079-422-8100
ホームページ http://k-heisei-rc-com　/ Eメール heiseirc@basil.ocn.ne.jp

ロータリーは世界をつなぐ

2019～2020年度RI会長　マーク・ダニエル・マローニー

No. 1407　December　4 、2019

例会プログラム

第18回（ 12月　 4日 ）

「年　次　総　会」
(被選挙会長指名・理事選挙)

榊　　誠幹事

例会当番　河内

次週例会プログラム

（ 12月　11日 ）

「ガバナー公式訪問」

浅木　幸雄ガバナー

次週例会当番　榊

前週例会報告

◊　ゲスト　　東播第2グループガバナー補佐　新井　哲三氏
　　ガバナー補佐随行　　覚野　成広氏

◊　ﾋﾞｼﾞﾀｰ

◊　出席率　　会員数　17名　出席数　11名　欠席数　4名　出席率73.33%
　　出席計算会員数　16名　10月　16日　補正出席率87.50%

◊　欠席者　　4名　鈴木　藤田　松尾　宮宅

◊　ﾒｰｸｱｯﾌﾟ　　2019年11月14日　第3回ポリオプラス小委員会　榊
　　2019年11月28日　11月度平成夜会　網本　鳥井　畑山　林　山本

★ 会長の時間（副会長）　★ 幹事報告　★ 新井ガバナー補佐

RIテーマ　ロータリーは世界をつなぐ

会長の時間

副会長　好崎　泰州

鈴木会長が急に体調不良のため欠席ですので、ピンチヒッターとして登場いたしました。
本日は、公式訪問前協議会に新井ガバナー補佐をお迎えいたしました。後ほど卓話をお願いいたします。
さて先日、ローマ法王が来日され、長崎・広島の原爆被災地を訪問されました。
そこで、世界の中で最上位の肩書の人は誰かと調べてみましたら、ローマ法王は、１３億人のキリスト教徒の最上位です。世界で一番教徒の多い宗教は、イスラム教徒の６０億人だと言われております。
では、どなたが一番かと思い、米国のホワイトハウスのドレスコードを調べますと、大統領がオモテナシをする事として、エリザベス女王・ローマ法王に正式な場所で会談するときは、タキシードにホワイト帯。天皇陛下の場合は、タキシードにブラック帯となりますので、最上位のオモテナシとなります。
皇室は、２０００年以上の歴史がありますのでそれなりのオモテナシをしていただけるのです。
胸を張って『天皇陛下万歳』と大声で叫びましょう。

本日の幹事報告

※ 例会欠席の時は必ず事前に事務局へ連絡！
※ 本日の食事；１００万ドル

① 回覧します
- The Rotarian December 2019（ロータリーの友英語版）
- 中津平成ロータリークラブ週報
- (公財)ひょうご子どもと家庭福祉財団よりサマープラグラム募金のお礼と活動のご報告
- 東播第２グループポリオプラスチャリティーコンペ収支報告書

② Box に月信、Ｒの友、地区大会ご参加・ご登録のお願いを入れています。
③ 例会終了後に定例理事・役員会を開催します。

SONG　TODAY

奉仕の理想

作詞；前田和一郎　　作曲；萩原英一

※前のボードでお願いします

クラブ会報・雑誌
記録小委員会

世界ポリオデー：また一歩、大きな前進を遂げる

世界ポリオデーの 10 月 24 日、ロータリーとパートナー団体による世界ポリオ根絶推進活動（GPEI）は、「ポリオのない世界」という究極の目標に向けて、また一歩、大きな前進を遂げました。この日、3 型の野生型ポリオウイルス株の根絶が発表されました。
この歴史的な発表は、世界ポリオデーにロータリーが世界各地で配信した特別プログラムの中で、世界保健機関（WHO）のテドロス・アダノム事務局長が行いました。同氏は、3 型ウイルス株によ

る発症が 2012 年 11 月にナイジェリアで検知されて以来報告されておらず、専門家から成る独立委員会が、この種類のウイルス株が世界的に根絶されたことを結論づけたと述べました。2 型ウイルス株は、2015 年に既に根絶が宣言されています。
「これにより、残るは 1 型の野生型ポリオウイルスだけ」とテドロス・アダノム氏は述べ、ポリオフリーの世界の実現に向けたこれまでのロータリーの尽力に言及しました。
また、自己満足が最大の敵だと指摘し、「最後の一押しのために 2 倍の努力で臨んでいただきたい」と激励のメッセージを寄せました。

「未来の子どもたちが“ポリオ”という言葉を目にするのが、歴史の本の中だけになる日が必ずやってきます」

「今活動を止めれば、ウイルスが再び流行し、年間 20 万人以上が新たに発症するという以前の状態に戻ることになります。（中略）私たちは最後までやり遂げなければなりません。力を合わせれば、未来の子どもたちが“ポリオ”という言葉を目にするのが、歴史の本の中だけになる日が必ずやってきます」
ロータリーによる今年の世界ポリオデープログラムは、世界各地に合わせた時間帯と言語で、フェイスブックにて配信されました。UNICEF USA とビル＆メリンダ・ゲイツ財団がスポンサーとなったこのプログラムでは、パラリンピックメダリストのアデ・アデピタンさん、スーパーモデルのイザベリ・フォンタナさん、科学教育者のビル・ナイさん、女優のアーチー・パンジャビさんなども登場しました。
またこのプログラムには、インド、パキスタン、ウクライナの子どもたちをポリオから守るために活動しているロータリー会員 3 名を紹介した映像も含まれていました。パキスタンでは、ロータリアンのタヤバ・グルさんが医療従事者のチームと協力し、ポリオワクチンの重要性について母親と子どもへの教育を行っています。インドのヘメンドラ・ベルマさんは、医療従事者とボランティアを通じて、すべての子どもに予防接種することを奨励しています。また、ウクライナのロータリアンであるセルフィ・ザバスキーさんは、子どもへの予防接種に消極的な人たちに情報を提供するため、ソーシャルメディアや公共イベントを利用したアドボカシーと啓発プログラムを実施しています。これらの 3 人のヒーローは、世界中のロータリアンと同じく、献身的にボランティア活動をすることの大切さを伝えています。

幼少期にナイジェリアでポリオに感染したポリオサバイバーのアデピタンさんは 、ここ 3 年間以上、祖国ナイジェリアで野生型ポリオウイルスによる発症が起きていないことに触れ、これはとてつもない偉業であると称えました。
ナイジェリアでのこの画期的な達成により、WHO が定めるアフリカ地域全体が来年、野生型ポリオウイルスのない地域として認定される道が開けました。アデピタンさんは、一昔前は世界中のポリオ症例のほぼ 75%がアフリカで起きていたことに触れ、アフリカ大陸における大きな前進を強調しました。
「今日、アフリカに住む 10 億人以上の人たちがポリオのない未来を迎えようとしています。活動はまだ終わっていません。私たちは『ポリオのない世界』という、より大きな勝利に向け努力しています。実現が待ちきれません」
科学教育者のビル・ナイさんは、ワクチンに対する人びとの抵抗が世界にもたらす脅威について話しました。「ワクチンに対する逆風が強くなると、予防可能な病気の流行が増えます。はしかだけでなく、ロタウイルスや破傷風、ポリオだってそうです。― ワクチンの科学は確立されており、議論の余地はありません」
「GPEI が始まった 1988 年以来、ロータリーとパートナー団体は、ポリオワクチンの普及に取り組んできた」とナイさん。30 年前、ポリオは 1 年間に 35 万人の子どもたちに影響を与えていました。その後、世界中で大規模な予防接種キャンペーンが行われ、今日までにポリオ症例数は 99.9%以上減少しています。
ナイさんは「これで予防接種の効果が具体的に示された」と話します。
ロータリーのフェイスブックで配信された動画では、ポリオ根絶活動の最前線で活動する保健ワーカーの活躍と、この 1 年間における達成にもスポットライトが当てられました。ロータリーの公式日本語フェイスブックでも、日本語字幕付きの映像をご覧いただけます。

世界が直面している課題

これらの成果にもかかわらず、アフガニスタンやパキスタンではポリオの症例が増加しています。地域によってアクセスが困難であること、予防接種を行うボランティアのための安全性が確保されていないこと、人びとの移動が非常に多いことなどが増加の理由となっています。2018 年全体で、これら 2 カ国で報告された野生型ポリオウイルスの症例数は、わずか 33 件でした。しかし、2019 年の現時点で症例数は既に 88 件となっており、専門家は今後さらに増えると予測しています。

WHO のポリオ根絶部長であるミシェル・ザフラン氏は、ポリオ根絶活動の中核はシンプルなもので、子どもたちに十分なワクチンを与えることができれば、ウイルスが宿る場所は減り、最終的にウイルスは消滅する、と話します。

しかし、現状は複雑で、地域によってはワクチンを受けていない子どもが何千人もいます。「接種を受けていない子どもがいる理由は地域によって異なります。（中略）治安が悪いためにワクチン投与者が行くのを恐れている地域もあります」と話すザフラン氏。治安のほかにも、インフラや安全な水供給の不足、不備のある活動計画、地域社会からの反発といった要因を指摘します。

ザフラン氏はまた、ポリオのさらなる蔓延を防ぐために、保健ワーカーが各地域社会を調べ、子どもが見落とされる原因を突き止め、地域特有の課題を克服するためにカスタマイズされた計画を作成していると話します。

このアプローチは、2014 年にポリオ根絶が宣言されたインドで、保健専門家が最後の障壁を乗り越えるために用いた方法と類似しています。

「この取り組みを信じ、支援を続けるための自信をなくすべきではありません。希望をもって活動を続けることです」と話すザフラン氏。「世界中で資金を集め、この取り組みに対する支援を政府に要請していく必要があります。（中略）ゴール地点は見えています。弱気になっている場合ではありません」

ポリオが根絶された場合、ポリオは天然痘に続いて、人類が根絶する史上 2 番目の疾病となります。ロータリーは、1985 年にポリオプラス・プログラムを開始して以来、ポリオ根絶のために 20 億ドル以上の寄付を行ってきました。また、ポリオ根絶活動のために年間 5000 万ドルの寄付金を集める取り組みも行っており、これにビル&メリンダ・ゲイツ財団から 2 倍額の上乗せが加わります。これにより、毎年 1 億 5000 万ドルを、「ポリオのない世界」という子どもたちへの約束を果たすための活動に充てることができます。